



受信メール: 川辺川ダムに関する県民の意見

人吉市に54年いて 川辺川ダム建設について思います。昭和30年代、40年代、50年代それぞれに水害について記憶がありますが、水没しなくても人吉球磨は氾濫する水で "陸の孤島"になったことを記憶しています。また がけ崩れで避難した人もいました。

そのとき水没したり、冠水した町内とは別に 川の恐ろしさを体験しました。雨は同じ場所に降ります高速道路も完全ではありません、大きな自然の力を絶対押さえ込むことは出来ないと思います。人吉に人が住むなら今出来る治水対策＝ダム建設を推進する。



受信メール: 人吉の公聴会を聞いて

ご担当者様

人吉の公聴会を傍聴してきました。意見発表を望んだのですが抽選にもれたということで、そのときは納得していました。

しかし当日聞いていると、全く同数の意見の立場にきれいに分かれていました。

不思議ですが、事実でした。

意見発表の申し込みの時点では、意見の内容も立場も全く記入せず、住所氏名のみです。それを「無作為」に抽選するのであれば、同数になるということは信じられないことです。数学的な確率でいえば、一体どのくらいの数字がでてくるのでしょうか？

仮に抽選であるなら、その抽選方法をもっとひろく県民に公開すべきであったのではないのでしょうか？

不作為があったと、内心では思った方も大勢いらっしゃるようですし、壇上で「何かあったのでは」という意見を述べた方もいらっしゃいました。

抽選方法を明らかにして欲しいと思います。

口利きがあったのかとも思われます。

抽選が公正なものであったのかどうか、事前に発表希望者の立場を把握していたのかどうか。

今回の人吉での不明朗な点を県民として納得できずにおります。



受信メール: 川辺川ダムに関する県民の意見

ご担当者

川辺川ダムに関する県民の意見募集について
意見を送付いたします。よろしくお取り扱いください。

以下 本文

国土交通省八代河川国道事務所主催の「くまがわ・明日のかわづくり報告会」(以下報告会)が、昨年5月の球磨村神瀬地区を皮切りに、球磨川水系流域市町村50箇所、流域外3箇所で開催されました。私は約半数の報告会を傍聴してきました。下記は昨年11月2日に開催された芦北町吉尾地区の報告会の住民の意見(一部)です。

①70数年自分は川の傍で生きてきた。瀬戸石ダムができるとき、水害はなくなると父親の世代は説得され、最後は責められてやむなくダムを受け入れた。考えてみるとすべて嘘だ。毎年水害にあっている。県とか行政がいろいろダムの説明をするが自分たちは体験によってダムの被害をわかっている。ダムがないことが大切。今日の説明を聞くと、ダムありきの説明だ。いろんな方法で洪水を防ぐ方法があるのではないか。

②自分は林業従事者で森林の洪水緩和機能を評価しており、ダムは要らない。基本高水は見直すべき。植林をしているが、森林に保水力がないというなら、自分たちの植林作業は意味があるのか？ 植林作業をもっと積極的に支えるべき。人吉の基本高水のことも含めて、机上の検討は考え直すべき。

③飯瀬地区は道路冠水で10年に一度は孤立する。どういう考えを国は持っているのか。

④平成17年の水害後、2ヶ月ほどしてある新聞社がタクシーを飛ばして東京からお客さんを連れてきた。清流球磨川を見たいということで、八代からさかのぼり、瀬戸石ダムの下流の瀬までは辛抱をされていたそうだが、渡あたりで「もう帰る。清流なんて嘘っぱちだ」と怒って帰ってしまったという話を聞いた。ダムを作ってきた人は、こういう話を聞いてどう思うのか。
==以下略

報告会で出された住民の声は、「現場に学べ。理論は現場に転がっている」そのものです。彼らの言葉には、そこに住み続けている人だからこそ感知しうる、歴史に培われた実体験から出された重みと輝きがありました。「ダムによる一極集中の治水」を主張する国土交通省と蒲島県政、住民が考える「河川を統合的に見る身の丈に応じた治水対策」の違いが浮き彫りにされています。知事は流域住民を訪ねて、真摯に耳を傾けるべきです。川辺川ダムに反対です。

「川辺川ダム事業に関する意見」 161

熊本県民のひとりとして「川辺川ダム」は、いいません。熊本県は、「水俣病」という歴史を持ち、たい打。チン・国・県の④にあり、

今も尚、問題は危惧している。「川辺川ダム」が建設されるのは、昔と問題は変、でも同じ様子を造る。たと、してはるこに作るよ。

知事 声は県民の多くは、金を必要だとは思、ていません。ムダ金だと思、ています。けしと事にはしません。「しからみ」があるからで。

とも、菊島知事ならとゆう、かたが時期もあ、てに構、てきたらだと思、ています。どうせ、知事、おれに流、す。当、に県民が願、っていること、目先のこと、では、流、す。「熊本」と言、わ、れる歴史に、残、る判断、を、生、か、た、と、希、望、し、て、い、ま、す。

「五ヶ村」については、23の数の支援は、た、た、た、の、お、金、に、た、ま、ら、ない、村、が、11、2、ま、た、ら、

素晴らしいモデルとなり、村民の誇りも
自信につながり、ついに思っていた。

以上 800字程度の意見です。



受信メール: 川辺川ダム事業に関する意見

「川辺川ダム事業に関する県民の意見」

○本文

県内で食品製造会社を営む者です。数度に渡り大型公共事業の地権者となり補償の実務を経験した経験から、川辺川ダム漁業権収用案件を審議した収用委員会で意見陳述する機会がありました。その時国土交通省の漁業補償に対する考え方に大きな誤りがあることに気づきました。河川環境の経済的価値という視点で意見を述べます。

1. 大規模人工構造物建設の漁業への影響を過小評価

収用委員会審議の大きな争点は「漁業補償の対象者」と「漁業補償額」でした。

国交省は、「漁業補償の対象者(=権利者)は球磨川漁協、補償金額は約5億円」というもので、これに対し漁協組合員有志の意見は「漁業補償の対象は組合員である」というものでした。

審議もかなり進んだ2003年春ようやく国交省は、算定の根拠を示しました。

当時の国交省資料によれば、球磨川全体の漁業権は「漁獲高14.8億円、年間5.7億円の収益をもたらす70.6億円相当の資産」です(漁業権等の価値を漁業収益を元に算出することからもわかるように、各組合員の「漁業を営む権利」の総和が、この金額になります。漁業収益をほとんど上げていない漁業協同組合という法人は、補償の対象とはなりません)。

問題なのは、国交省が考える「川辺川ダム建設による漁業被害(=補償額)」です。

国交省の考えは、「ダム完成後にできるダム湖で水没する漁場面積の球磨川水系漁場面積に対する比率の分、漁業権の資産価値が減少する」というものです。

流水を遮断する形でダムを造った場合、影響はダム湖だけでなく流域全体に及ぶというのが、現場で漁をしている漁業者の意見です。単に経験則だけでなく、流水と滞留水による水生植物の違いなど科学者の研究もあります。アユのような清流を好む溯上性の魚が漁獲の中心をしめる球磨川の場合、ダム建設はアユの生息環境に大きな影響を与える可能性は充分予見できます。

アユ漁の平均収益率は40%ということです。漁獲高が20%減少した場合、経費は変わらず収益のみ半分になります。これにより漁業権等価値は半減、つまり35億円の損失になります。収益が半減すれば、生業として成立しません。漁業の廃止など、漁業に「壊滅的な打撃」を与えます。

河川の生態系・漁業経営の実態を理解していない官僚は、正しい補償額の算定すらできませんでした。「川辺川ダムを造れば、球磨川の漁業に壊滅的な影響を与えます」ときちんと説明した方がまだ「潔い」です。いい加減な補償ですませようとするのは「財産権の侵害」、一種の犯罪です。

川辺川に限った話ではありません。諫早湾締切の影響が、湾内だけでなく有明



海全体に及んでいると言われていいます。農水省の担当者の想定を越える影響だったと思います。それだけ、ダムなどの巨大構築物が河川や海の生態系や漁業に与える影響は大きいという事です。この点について行政には猛省が求められます。

※このような国交省の漁業補償額算定の誤りを見過ごしたことに關しては、水産資源の保護と管理を業務とする県庁の漁業担当部署にも責任の一端があると思います。

2. 食糧生産と内水面・沿岸漁業の振興

瀬戸石・荒瀬などのダムができる前はもっとアユが獲れていたことを考えると、球磨川には、漁業に限っても本来数百億円の資産価値が見込まれます。水産加工・飲食・観光など関連産業のことを考えれば、その価値はさらに大きくなります。

先の漁業補償算出額などをみればわかるように、ダムなどの事業を進める立場(国交省だけでなく、某県企業局も)の方々はこういった河川の資産価値を過小に評価する傾向があるようです。

食料自給率が40%を割り込む中、河川や沿岸の水産資源は貴重な食料源です。特に魚介類は、動物性タンパクの供給源になります。漁業の再建は水産加工業や観光などにも寄与します。事業としての見通しが明るければ、地域の雇用環境もよくなります。

企業誘致もいいですが、球磨川のような地域資源を活かして、地域経済を活性化し就業の場を大事ではないかと考えます。

為政者として大切なのは、「住民が安心して暮らしていける環境を創ること」です。基本になるのは、食糧の確保であり、雇用の場の創出です。

球磨川を有効に活かすことは、こういった可能性を拓いていくものだと考えます。

河川を「治水の対象・発電の道具」として管理するのか、「食糧資源・地域産業資源」として活用するのか、樺嶋県政がどのように判断するか見守っています。

=====>本文終わり



受信メール: 川辺川に関する意見書

蒲島県知事殿

オランダ人アドバイザー、ディック・デ・ブラウン氏は14日県庁で会見し、「人吉市の人々が流域に住み続けたいと考えるならばダムは必要」との発言したと聞きます。

現地では40年間、論議が続けられ、潮谷県政では8年間真摯な議論が続けられてきたのに、飛行機から降り立ち、たった二日間、現地を見ただけでそんな発言をするアドバイザーには、見識を疑うところです。また、このような発言をする人が中立・科学的とも思えず、その根拠はどこにあるのか、お聞きしたいところです。

さて、同氏はまた、「洪水の有る所に住むのは危険だ」との発言をされたかに聞きます。オランダは国全体が低いので、日本の急峻な川と共に住む生活が分かれられないのでしょうか。

「技術にも自治がある」(治水技術の伝統と近代)と言う本の中で大熊孝(新潟大学工学部)教授は、洪水について、以下のよう、述べています。

「洪水に遭いやすいところほど、人が住みやすく、また実際に洪水にあうと言う構図である。これが川の災害の本質である。それでも、人々が永く川沿いに住んできたのは、結局、川から受ける害よりも恵みのほうが多かったからであろう。」

大熊氏は、高度成長期の中、エリートたちが進む東京大学の工学部に学びます。そこでは洪水は悪で、ダムは善だったそうです。

「私たちは、洪水は害であり水資源的には無駄に流れているのだから、これをダムに溜めてしまえば一石二鳥であると、すなわちダムづく入りは「善である」と教えられた。...しかし、博士課程に入って利根川の現地を歩き、つぶさに川を見ていく中で、ダムの洪水調節効果には限界があることを知った。当時はまだダムの生態系への影響まで思いがいたらなかったが、その後新潟大学に赴任して信濃川上るサケやアユが激減している状況を見てダムの弊害を痛感するようになったのである。」

そうして、洪水は無駄ではなかった、害ではなかったと悟るにいたるのです。

「川の流れは、元来、洪水であれ、濁水であれ、何千万年、何百万年もの継続の中で、それ自体の環境を作ってきたのであり、無駄な水は一滴も、なかったと考えるべきである。たとえば、洪水で石礫が動き、古い苔がはがれて新しい苔ができれば、アユにとって良い餌となる。また、洪水で運ばれる大量の有機物は海の生物にとって一大栄養源である。

つまり、川は洪水という攪乱を時々、受けながら長い年月にわたって、自然環境を形成してきたと言えるのである。」

洪水を単なる悪と見て、ダムでとどめてしまおうという考え方は、もはや時代遅れであることを知らねばなりません。

新潟にある小学校の校歌は以下のように、歌っています。

「青田を潤す川瀬の水も 時にはあふれて里人たちの たわまぬ力を鍛えてくれる、..」

ここでは洪水は忌み嫌われてはいません。球磨川でも、昔の洪水は嫌われては居なかったと聞きます。年に一度の大掃除で、そのあとの濁り救い【アユの捕獲】が、楽しみだったと言います。

こうして何百年も前からむかしから、人は川と洪水と共存してきたのです。

しかしながら、自然の洪水とは共存できても、ダム放流による災害とは共存できないことは、人吉の災害体験者の声に聞く



とおります。

最近の岩手県の地震、中国の四川省の地震、すべてダムによるものだという週刊誌の記事を読みました。ダムは、水害と地震を引き起こす、人災であることを国民は深く知るべきだと思います。

水害と地震を引き起こすダムをこれ以上、作るべきではありません。川辺川ダムには、反対します。

=====



受信メール: 川辺川に関する意見書

=====
拝啓 蒲島県知事殿

私は、熊本市に住む主婦ですが、川辺川ダム問題は、単に一地域の問題ではなく、国の税金を払う国民皆の問題であるという認識のもとに、ここ8年ほど尺アユトラストという運動を行っております。この事業は、球磨川・川辺川のアユを全国の消費者へ産地直送することで、川辺川・球磨川のアユと川漁師、ひいては熊本の川を守ろうという、グリーン・コンシューマー運動です。賛同者は熊本県内が3分の1、それ以外は全国に散らばっております。初年度、アユ解禁とともにアユを漁師さんが送ると、「こんな素晴らしい鮎は初めて!」「こんなアユが取れる川をぜひ残して!」「昔、地元にもアユが取れていたが今はもう、取れない。ダムは絶対つくらせてはいけない!」というアユへの賛美と清流を残してという声が殺到しました。初年度は1500口を発送し、漁師さんによっては50万円以上の> 売上げを得たのです。しかし、その年をピークにアユがだんだん取れなくなり、昨年は250口、初年度の4分の1にまで減少しました。短期間の激減にアユの絶滅を危惧しているものです。原因は、温暖化や長雨等も考えられますが、球磨川漁協の掬い上げ事業の弱体化と、上流の砂防ダムからの濁りなど、人工的な要因も考えられます。熊本県の大事な水産資源ですから何早急に手を打っていただきたいと思っております。県知事は、熊本の可能性は無限大、稼げる県にと言っておりますが、日本三大急流の一つ、球磨川の急流によってもまれたアユは姿・形・味と三拍子揃って、清流の女王と言われ築地市場でも高値で取引されております。このアユこそ、無限大の可能性のある水産資源なのではないでしょうか? 島根では1万円のアユが料亭で人気との事です。稼げる県にしたいのであれば、ぜひ、熊本の宝、アユの再生に力を注いでください。球磨川に、これ以上、ダムを作らないでください。川辺川ダムに反対です。



受信メール: 川辺川ダム事業に関する県民(私)の意見

熊本県川辺川ダム総合対策課 御中

「川辺川ダム事業に関する県民(私)の意見」

川辺川ダムは、計画から40年たってもまだ工事に着手されていないダムであり、それだけ多くの問題がある事業である。

川辺川ダムは、特定多目的ダムの計画であったが、現在は治水目的だけである。ここでは、① 費用 ②効果 ③環境 の三点について絞って意見をのべます。

① 費用

国も地方も財政が厳しいのに何故、今ダム建設をしようとするのか。またダムは構造物であり、何れは老朽化して撤去しなければならないが、その費用は計算されていない。計画の時点で耐用年数を科学的に算定し、撤去の方法や規模についても定めて撤去費用も建設時に明らかにしておく必要がある。荒瀬ダムの撤去もその定めがないため問題となっている。

② 効果

地元の人は、ダムによって被害にあったと主張しているが、ダムの操作しだいではその可能性はある。また、今までダムがあったから洪水から人の生命、財産を守った具体的な事例の報告がない。効果はあるはずであるので具体的、統計的なデータを出していただきたい。観光的な効果もあるので、その点も数

字でデータを示していただきたい。

③ 環境

環境の点では、マイナスだけで、プラスになる点はない。特に河川、海の魚場に対する環境汚染がひどく、多大な被害を与えている。

以上、字数の関係で簡単に意見をのべましたが、費用の問題、環境の問題からしてダム建設は積極的に推進すべきではない。当面の治水対策はダム以外の方法で対応すべきと思います。



受信メール: 補足訂正分

「川辺川ダム事業に関する県民(私)の意見」

川辺川ダムは、計画から40年たってもまだ工事に着手されていないダムであり、それだけ問題点の多い事業である。

川辺川ダムは、特定多目的ダムの計画であったが、現在は治水目的だけである。ここでは、① 費用 ②効果 ③環境 の三点に絞って意見をのべます。

① 費用

国も地方も財政が厳しいのに何故、今ダム建設をしようとするのか。またダムは構造物であり、何れは老朽化して撤去しなければならないが、その費用は計算されていない。計画の時点で耐用年数を科学的に算定し、撤去の方法や規模についても定めて撤去費用も建設時に明らかにしておく必要がある。荒瀬ダムの撤去も、その定めがないため問題となっている。

② 効果

地元の方は、ダムによって被害にあったと主張しているが、ダムの操作しだいではその可能性は十分あると思います。

今までにダムがあったから洪水から人の生命、財産を守った具体的な事例の報告がない。効果はあるはずであるので具体的に 統計的なデータを出していただきたい。観光的な効果もあるので、その点も数字でデータを示していただきたい。

発電が伴うダムについては、発電のために投資した金額、発電した電力を売電して得られる年間収入もダムことに明示していただきたい。

効果の点については、資料不足により、判断できないので、これらの効果なるべく数値的な資料を明示していただきたい。

③ 環境

環境の点では、マイナスだけで、プラスになる点はない。特に河川、海の魚場に対する環境汚染がひどく、多大な被害を与えている。

以上、字数の関係で簡単に意見をのべましたか費用の問題、環境の問題からしてダム建設は行うべきではないと思います。当面の治水対策はダム以外の方法で対応すべきと思います。

蒲島知事へ

意見70

○ ダムで水害は防げません。昭和57年7月に球磨村神瀬の神瀬地区の球磨川沿いの住宅が水害で浸かりました。その時の水の増え方は尋常ではありませんでした。短時間のうちに水数mも増えたのです。それまでは、2階まで水が来るとはなく、畳をはいで2階に上げれば大丈夫だったのが、それでも浸かってしまいました。これは、市房ダムが解放流したためです。

も川辺川ダムができ、両ダムが一度に放流することになれば、もっと大きな水害になるでしょう。

無駄で環境にも悪いダムは絶対に作らないで下さい。

○ ダムを作ることにすれば、県の財政も大変な支出になります。不甲、不急の事業はやめて、県民の福祉や教育に予算を使うべきだと思います。



受信メール: 川辺川ダム事業に関する意見

私は、平成13年12月9日の「第1回川辺川ダムを考える住民討論集会」及び「専門家会議」等に全て参加してきたと申します。

川辺川ダム建設推進の立場で意見を述べさせてもらいます。

現在では、当初計画より治水・発電が無くなりましたが、食料安全保障の立場から、カロリーベース39%の自給率を高める為に、あえて利水事業を申請事業ではなく、国営事業として利水を復活させ、利水対象農地を日本有数の食料生産基地にすると言う、新しい農業政策を蒲島知事が自ら、停滞し荒廃した農業政策を大転換させる為に、国に発信されたらどうでしょうか。もちろん、これを実現させるためには、法律の改定と言う、大きな壁が立ちはだかります。しかし、知事はかねてより「私には教え子と言う素晴らしい人材・人脈がある」と自負されておりました。私は、知事なら日本国政府を動かす力量があると信じております。

どうか、食料安全保障と農業再生の為に、多目的ダムとして建設するとの英断をお願い申し上げます。



受信メール: 川辺川ダム事業に関する意見

建設業で働いております。

ご存じの様に、我々は大雨洪水警報が発令されれば、従業員を待機させ、

自治体等から出動要請があれば夜中だろうが大雨の中だろうが、災害の予防や災害復旧の為の応急作業など、

行政や消防団と共に災害現場の最前線で活動をします。

我々の得意とするところは、重機と特殊車両による、機械力と機動力であります。

しかし、そこには必ず私の同僚がいます。一般の住民が家の中で大雨が過ぎ去るのを待つのと違い、

私も同僚も最悪の状況下で作業をしなければなりません。

ひとたび、二次災害で私たちに事故があった場合、家族の悲しみは計り知れなく、会社の被害たるや莫大なモノとなります。

しかし、私たちは古くから地域と行政とのつながり中で生きて来ました。

一般的に言ったら、社会貢献と言いますが、言葉はどうであれ、地域に根ざした我々建設業は、

これらの全てを含めたモノが仕事であり社会的使命だと思い、生きて来ました。

水害危険地帯の住民の生命財産を守る事はもちろんですが、

住民の安全を陰から支える私たちの為にも、ダム建設推進の英断を是非お願い申し上げます。

「川辺川ダム事業に関する意見」について

川辺川ダム賛成

私は、球磨郡多良木町に在住するものです。

球磨川の恩恵を受けて長年この地に住んできました。川の洪水に関しては直接被害を被る場所には住んでないので、詳しくは分かりませんが、近年の各地での災害をニュースなどで見て災害の怖さは分かってるつもりです。

人吉市で、去る7月29日に行われた会場にも参加してきました。

ダム反対派の方達が言われる事も理解できます。

確かに無茶な自然破壊はやらない方がいいし、絶滅種の存続も大事です。

しかし、市房ダムが出来た頃からすれば数段に技術は進歩してるでしょうし、知恵を絞れば何とか解決策があるのではないのでしょうか。

ただ、災害に関しては、人間にはなす術がないと思います。けど、被害を最小に抑える事は可能だと思います。

起こってから後悔しても遅いのではないのでしょうか。

ダムが出来上るまで7～8年かかると、ある人から聞きました。

近年の災害は温暖化のせい規模が大きくなってるように感じます。今後も予想以上の災害が起こることもあり得るでしょう。

だから、1日でも早くダムが必要だと思います。

また、大雨や洪水が起こるなら、逆に大干ばつも有り得るのではないのでしょうか。

幸い熊本は、地下水が豊富なところですが、でも、その地下水も年々減ってきてると聞いてます。

球磨人吉の人達は、球磨川や川辺川という一級河川があるので気にしてない人も多いようですが、もし、川が干上がってしまったら農業はもちろん、生活さえ危ぶまれます。

市房と川辺の2つのダムの貯水で多少の水不足も解決できるのでは。

素人考えで間違ってるところもあるかもしれませんが、知事のご英断を期待しています。

川辺川ダムは無害無益
早く工事も止めさせよう

〇代で話しましたが、〇代は加藤清正の
造った堤防で、400年以上大水害は無かった。
治水にダムは要らない。

我々が若い頃には、日本三大急流の一つと云わ
れ、きれいな清流を、アユがムシを食
ひながら生きていた。現在は、途中に出来たダムのため、
わづかに残った川辺川の清流を放流して、非常にすくなく
なつてはいるが、アユをほんの少し命脈も保ち、面影を
残しているが、川辺川ダムを造れば全滅する
5分では以上の主旨しか話せなかった。

川辺川ダム予定地は、断層地帯で、しかも、岩石は石炭灰岩
であり、すぐ横にダムに沈む地帯に住んでいた人達をあげた
台地があり、ダムを造ったら、地中を流れていた水が
家が流されて大変になる。
現にすいソバに造られたトンネルの壁がはがれ落ちたし、
砂防ダムを造った所から白濁のにごった水が流れ出した事は
まさに警告と受取るべきだ。
この事は、重大な事だと思つたので、告げろべき事項と思つたので
お知らせして置きます。

以上

川辺川ダムに関する意見

川辺川ダムは、計画当初、利水・発電・治水の三つの目的を持った多目的ダムとして計画されました。しかしこの間、利水・発電の目的はなくなり現在は「治水」だけが残っています。

治水は、本来のダム計画は崩壊去つたことを意味します。ここでダム計画を白紙にもどし、ダムによる「治水」をやるべきだと思えます。

その理由は、①ダムによる環境破壊をなくすです。人吉球磨は元々、自然の豊かな所です。川辺川は本来に清流です。私は仕事でこの地に赴任し、この地の自然に魅かれ居つきました。市産ダムがある球磨川は川辺川と合流点で明らかに水の色が濁っています。

②人吉球磨は温泉地であり相良八百平の歴史と文化を持つ観光地です。その目玉の一つは言うまでもなく球磨川下りであり、そこで取れる鮎のおいしさです。それがダムを作れば壊されます。

③ダムは必ずしも洪水を防ぐのに役立つどころか、逆に放水により洪水を引き起こすとなえ言われています。地球温暖化によって想定外の雨が予想されています。これは想定外の雨量には弱ソと言う欠点を持っています。そうなった時は一気に放水し、洪水を引き起こすでしょう。

④莫大なダム建設資金で、国や県の財政を益々圧迫します。こゝ以上の借金はできません。

以上の理由でダム建設には反対です。ダムによる「おろし水」をすすめることを強く求めます。

私は6年前(平成14年)に人吉市に転居して来た者です。自然に恵まれた環境とおいしい水や農産物に満足して生活しています。特に新鮮なくだもの類は他の土地では経験したことのないものです。

しかし、毎年憂鬱な季節がやってきます。大雨のふる梅雨と台風の季節です。盆地である人吉は河川の水位上昇が早く、短時間に危険な水位まであがってしまいます。そのたびに堤防決壊のことを考えなければなりません。幸いなことに私が来てからまだ堤防を越えたことはないようですが、毎年のように避難勧告は出ています。近年の集中豪雨の激しさや地球温暖化の影響による台風の強大化を考えるといつ堤防を越えてもおかしくない状況にあると思います。

川辺川ダム建設は、もとをたどれば水害から流域住民の生命財産を守るために流域自治体が国に陳情して建設をお願いしたものではないでしょうか。自然の力に立ち向かうのはたやすいことではないけれど、河川にダムをつくり洪水調整をすることは人間のできるせめてもの抵抗ではないでしょうか。

ダム建設が環境破壊といわれていますが、ダムをつくったから森林の保全事業などの環境保全活動ををおろそかにしていいということにはなりません。森林の手入れを行い保水能力を向上させることや動植物を保護していくことは必要なことだと思います。ダム建設と環境保全は同時に進めるべきことだと思います。

今まで大丈夫だったからこれからも大丈夫だとは地球温暖化の進展を考えた場合けっしていえないことです。むしろ異常気象は今後激しさを増していくものと考えたほうが自然です。人的被害が出る前にダム建設に着手されることを強く要望いたします。

私は長年人吉市に住んでいるものです。

川辺川ダム建設に賛成の立場で意見を述べます。

私は以前は環境問題の高まりから川辺川ダムは造らないほうがいいのではないかと考えていました。しかし、最近の地球規模の異常気象をテレビ等で見聞きするにつれダム建設は必要ではないかと考えるようになりました。巨大化、強大化した台風がいつ襲うかわからないことを考えると、考えられることは全て行って災害による被害を最小限に抑えることが必要だと思います。70歳を越えて1人暮らしの私は、災害にあうことや避難生活は考えるだけでも苦痛です。

人吉球磨郡には農林業以外にたいした産業もなく、公共事業による兼業農家の現金収入はわずかながらでもうるおいとなっています。ダム建設中の資機材や生活用品の調達需要による活気をてこにして、ダム建設後の観光資源としての活用などを考えて、若者の働く場所を確保すべきです。川辺川ダムが中止にでもなれば、五木村や相良村は忘れられてさびれてしまうのではないかと心配です。

川辺川ダムの本体着工の遅れで、当初のダム建設の目的があいまいになっているようですが、流域住民の安定した生活を守るために早期着工をぜひお願いいたします。

川辺川ダムについて

私は、10数年消防団として活動しており、消防団員として今回の川辺川ダム問題について、意見を述べさせていただきます。

消防団員は火災のみならず、水害、人捜し、地域の予防消防等、要請があれば出動します、特に河川地域の消防団員は、梅雨、台風の時は大変です。

河川が増水した時は、土のう作り地域住民宅へ出向き、避難の呼びかけや、浸水に備え、家裁道具の引っ越しを行う。

こんな時みんなで浸水する前でよかったと思いながら手助けを行うが、時には間に合わず、ただ水浸した家裁道具を持ち出すこともある、夜中の大雨の中、幼い子供も泣きじゃくり、人間の無力さを感じただ黙々と作業をこなす、ダムが早く出来ればこんな思いをせずすむのでは無いかと思う、水害は無くなる事は無いと思うが、浸水する迄に我々の活動が終える事が出来る。

人間は自然には勝つことが出来ないが、被害を最小限に留める事は出来る、その為にもダムが必要だと思う。

私は、球ヶ川を見渡せる地域、正に川と密
 接した生活をしていきます。
 最近の川を見て思う事は、たった一日の雨
 で水の量が一気に増え、堤防を越えて家に浸
 水するのでほという危機を感じます。
 ここ数年の天候をみても、明らかに異常気
 象である事は、誰もが感じていると思います。
 局地的な豪雨や土砂崩れ、その逆の雨不足
 台風発生の増加など、人間の力ではどうにも
 ならない自然災害が多発していて、私たちの
 生活はどうなるのかと心配しています。
 川辺川ダムが出来ると、水量の調整、農業
 用水の確保と利点があります。
 特にこれから先は、地元で農作物も生産可
 るという事は、地県や他国からみても、強み
 であると思います。
 川辺川ダムを作り、その周りにはある豊かな
 自然と共生できれば、それが一番ではないで
 しょうか。

私の主人は15年前建設業の会社を辞め、今は、息子が建設業の会社で働いております。息子家族は人吉の球磨川沿いに家を構え生活しております。大雨や洪水や台風など緊急時には昼夜を問わず、川の監視やポンプアップなどに出勤しております。息子は私達の老後を見るために地元に戻って来てくれました。建設業は災害対応の仕事と十分承知しておりますが、家には広域と小さい三人の子供を残して、雨の中を危険と隣り合わせで仕事をしている事を考えると、私達が何もしてあげられない事が残念です。私はダムは出来ると信じ、今まで生活をしております。ダムが出来れば災害出勤の危険な仕事も少なくなるし、息子達が、この人吉で仕事をし、生活していけると思っています。

今、皆さんがダム建設が公共事業の無駄遣いといっておられますが、この地域で暮らす人々が公共事業で生計を立てている事も知っているはずですが、息子が職を失い、この地を離れることを私達夫婦は望んでいません。早くダムを造って下さい。何とぞお願い致します。